

科目名				授業の種類	授業担当者
子育て支援				演習	柿 嶋 千 恵 子
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修
2	1	30	15	後期	幼児:選択 保育士:必修
〔授業の目的・ねらい〕					
保育士が行う子育て支援の特性を理解し、その内容・方法・技術を学ぶ。					
〔授業全体の内容と概要〕					
<ul style="list-style-type: none"> * 子どもの保育とともに行う保護者支援の在り方を学ぶ。 * 支援の計画・実践・記録・評価・カンファレンスを学ぶ。 * 特別な支援や子どもの虐待予防と対応を学ぶ。 * 多文化共生社会について学ぶ。 					
〔受講上の注意事項〕					
* 学ぶ姿勢で臨むこと。		* 配布資料を保管すること。		* 提出物は、期限を守ること。	
〔使用テキスト〕			〔評価基準〕		
(改訂)子育て支援		中央法規出版社	授業態度、提出物、課題、試験を総合的に評価する。		
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕					
回	項 目		授 業 内 容		
1	子どもの保育とともに行う保護者支援		保育の特性、保育士の業務 保育所における子育て支援について		
2	保護者との相互理解と 信頼関係の形成		保育者の基本的態度		
3	保護者や家庭の抱える支援ニーズ		保護者や家庭の現状 状況に配慮した個別の支援		
4	支援の計画と環境の構成		支援目標の設定 支援内容や方法の計画		
5	支援の実践・記録・評価・カンファレンス		保育士の専門的な知識・技術を活用した実践 記録の取り方・評価の観点		
6	職員間の連携・協働		連携・協働の必要性と取り組み		
7	社会資源の活用		社会資源とは 関係機関や専門職との連携・協働		
8	保育所等における支援(1)		保育所に通っている子どもの家庭への支援		
9	保育所等における支援(2)		地域の子育て家庭に対する支援		
10	保育所等における支援(3)		障害のある子どもとその家庭に対する支援		
11	保育所等における支援(4)		特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援		
12	保育所等における支援(5)		児童問題の背景 虐待の予防と対応		
13	要保護児童等の家庭に対する支援		社会的養護と養護施設の理解		
14	外国人家庭に対する支援		日本の多文化共生社会の現状		
15	まとめと試験		子育て支援の今後に向けて 試験		

実務教員としての経歴	保育園勤務38年、その後園勤務体験を基に行政の場で長野市の子育て支援に携わっている。
実務経験と授業の関連	保育士や行政の場で習得した子育て支援の知識等を、保育士を目指す学生の養成に活かす。